

## 御嶽山（開田口登山道）

2013年7月27日(日) 晴れ

メンバー L 和利（記）、やまたくお

道の駅で仮眠後、開田口へ移動。  
準備をしていると山頂方向から雷鳴が響き、大粒の雨も落ちだした。  
朝から雨、しかも雷ではテンションが下がる。  
一時間ほど朝寝して出発した。



林道脇の駐車場(5~6台は可能)



開田口登山口(4合目)

登山道はシダと苔に覆われた林の中をゆっくりと高度を上げていく。  
林の中は、ギンリョウソウやキノコ類が多く、深南部を歩いているようである。



ギンリョウソウ



キノコ??

1合目毎、あるいは0.5合目毎に真新しい標識が立っていて迷うことはない。  
7合目の古い山小屋は解体され、廃材が積み重ねられていた。



シダシダ苔苔のルート



7合目小屋跡

7合目を過ぎたあたりからスノキ（ブルーベリーの仲間）とシャクナゲが増え始め、登山道を隠しつつある。スノキには小さな実が付いていて秋には存分に楽しめそうである。雨のしずくで、膝から下はびしょ濡れとなり、脚にまとわりついて歩きにくい。



サンカヨウ



9合目から雪渓

9合目を過ぎたあたりから雪渓治いに進む。花の種類は多く、サンカヨウ、ミヤマキンバイ、ヨツバシオガマ、バイケイソウ、アオノツガザク、イワカガミ、モミジカラムツ、ハクサンイチゲなど今を盛りと咲きほこっている。御嶽山でこんなに多くの花を見るのは始めてである。

雪渓を過ぎてハイマツとナナカマドが行く手を阻み、キノアザミの群落が脚を刺す。ほどなく森林限界、ガラガラの御嶽山らしい登山道となり、ピンクの可憐なコマクサが増え始めた。三ノ池避難小屋が前方に見えてきた。左からは、黒沢口登山道女人堂から続くトラバース道に白装束の信者の列が見える。



ミヤマキンバイの群落



コマクサ



黒沢口合流点



三ノ池

三ノ池を反時計回りで、四ノ池、五ノ池と周遊し、五ノ池小屋のテラスで一本。  
 摩利支天山（2959m）には登らず、トラバース道を三ノ池に下りてそのまま往路を下山した。  
 御嶽山も剣ヶ峰より北側は、人も少なく静かであり。  
 開田口登山道は行きも帰りも誰にも会わなかった。  
 往復10時間のハードな山行であったが、静かで花の多いルートであった。



四ノ池



五ノ池小屋

<タイム>

開田口登山口（4合目）(7:22)－5合目(8:04)－6合目(9:18)－7合目(10:09)－8合目(10:37)－9合目(11:05)  
 －三ノ池(12:07)－五ノ池小屋(13:02)－三ノ池(13:40)－8合目(14:58)－7合目(15:18)－6合目(16:00)－5合目  
 (17:00)－開田口登山口（4合目）(17:28)

以上